

野菜の作業

入梅の時期になり病害の発生が増加します。

早めの敷藁や予防防除の徹底で病害の発生を未然に防ぎましょう！

種まき	定植 (植付け)	栽培のポイント
<ul style="list-style-type: none"> ・ホウレンソウ ・コマツナ ・チンゲンサイ ・ダイコン ・カブ ・スイートコーン ・葉ねぎ ・白うり など 	<ul style="list-style-type: none"> ・サツマイモ ・青シソ ・ニラ など <p style="text-align: center;">収 穫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タマネギ ・ニンニク ・シュンギク ・ピーマン ・キュウリ ・ニラ など 	<p>【ピーマンの3本仕立て】</p> <div data-bbox="622 801 933 1167" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1番花が着いたところで主枝が2本あるいは、3本に分かれるので、これを伸ばす。その後は、花が着くたびに2本に次々枝分かれするが放任して良い。</p> </div> <div data-bbox="957 761 1476 1220" style="text-align: center;"> </div>
<p>【ネギの栽培管理】</p> <p>1) 土寄せ 茎を白くし品質や収量を向上させます。定植後30日後から除草を兼ねて行いましょう！</p> <p>2) 追肥 土寄せとあわせ行います。1回に1a当り追肥化成(わかみどり)を2kg散布して下さい。収穫までに4回程行います。</p> <p>3) さび病の予防 ネギのさび病は、比較的温度が低くなる梅雨の頃と秋雨の頃に多く発生します。カビにより発生する病気なので、肥料の過不足を防ぎ健全なネギを育てるとともに薬剤の予防散布の徹底で被害を防ぎましょう！</p> <p>《ネギのさび病防除薬剤》</p> <p>① ダイファー水和剤の400倍 …予防剤(発生前に散布)</p> <p>② バイトン水和剤5の400倍 …治療効果あり(発生初期に)</p>	<p>【ナスの三本仕立て】</p> <div data-bbox="622 1355 1460 1937" style="text-align: center;"> </div> <div data-bbox="651 1944 1417 2123" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>主枝に付いた1番果のすぐ下から出た強い側枝2本を伸ばして「主枝1本+側枝2本=3本仕立て」とする。3本仕立てに残した側枝2本より下方に位置するわき芽は、小さなうちにかき取る風に倒されぬよう図のように支柱で支え、大きくなるにつれ支柱もしっかりしたものに代える。</p> </div>	

アスパラガス
一口メモ



【名前の由来はギリシャ語から】

ユリ科の多年草のアスパラガスは南ヨーロッパからウクライナ地方が原産地で古代ギリシャ時代から栽培をされていました。日本には江戸時代にオランダ人によって伝えられました。「アスパラガス」とは「激しく裂ける」という意味のギリシャ語が語源で、新芽という意味をさすと云われています。グリーンとホワイトは栽培方法の違いで品種の違いではありません。生産量は長野県が日本一！2位の北海道とで国産の約6割を生産しています。(グラフィック 100万人の野菜図鑑より)

質問コーナー



農業豆知識

ハダニ・アブラムシ・スリップス(あざみうま)の
発見方法や 防除方法を教えてください！



農作物を良く観察し、早期の防除に努めましょう！

害虫名	発見方法	防除方法
ハダニ	乾燥時に葉裏に発生が多い(葉裏の観察) 群生して葉汁を吸うので葉が全体的に黄色くなる 激発すると葉と葉の間に白い糸が張りめぐり落葉する	密植を避け風通しを良くする ほ場周辺の雑草防除をする 雑ダニ剤を散布する
アブラムシ	植物にアリの往来が激しい時は、どこかに集団がいると思われる。葉に油滴状の排泄物が付着すると「すす病」が発生し果実等が黒く汚れる。 黄色を好む	銀色の反射光で飛来が抑制される テントウムシはアブラムシの天敵 播種・定植時の粒剤処理が効果的 殺虫剤の散布
スリップス	アブラムシ同様「黄色や青色を好む」 キュウリの花(黄色)や、ナスの花(青紫色)の中にいる場合、花の下に白い色の紙を置いて花を軽く叩くと、ムシが紙の上に落ちるので確認ができる。 周辺にスズメノテッポウ等の雑草が多いと発生が多い ナスの果実や、ネギの表面がカスリ状になった時は、発生を疑う必要がある。	銀色の反射光で飛来が抑制される また幼虫から蛹になるため土中に潜るがフィルムマルチの使用はその妨げになる。 ほ周辺の雑草防除をする 播種・定植時の粒剤処理が効果的 殺虫剤の散布

防虫ネットの利用で害虫の侵入を防ぎましょう！

ネットにより物理的に害虫の侵入を防ぎます。(目的の害虫の大きさによりネットの目合いを代えます)

ネットの目合い(mm)	進入を防止できる害虫の種類	ネットの目合いを考慮すると 0.8mm以下のネットを被覆できれば、多くの害虫の侵入を 予防できます
5.0	シロイチモンジヨトウ・ウワバ類	
4.0	ヨトウムシ・タバコガ	
2.0	アワノメイガ・ウリノメイガ	
1.0	コナガ・アブラムシ・ナモグリバエ	
0.9 0.8	スリップス類 ハモグリバエ・キスジノミハムシ	



梅雨の時期になります！

敷藁は降雨時の土の跳ね上りを防ぎ、べと病・つる枯病等の病害の発生を軽減します。梅雨入り前に敷藁を行いましょう！

また、銀色のポリマルチは有翅アブラムシ、スリップスの飛来を軽減させます。夏から初秋に掛けての種まきでは、まだ野菜が小さいうちにアブラムシの被害に

遭いウイルス病が増加しますので、夏まきには是非活用下さい。加えてマルチは雑草も抑制します。雑草は病害虫の住処にもなりますのでマルチの活用とともにこまめな除草を心がけましょう！

【以上、技術事項についての作成協力】

上小農業改良普及センター(担当:白石主査 電話 25-7157)